

佐賀県農業土木振興会「三養基土地改良区現地研修会」に参加

西日本総合コンサルタント(株)

佐賀県の農業土木職員OBでつくる「佐賀県農業土木振興会」(牛草寛志会長、会員21名)が開催(令和3年10月28日)した三養基土地改良区現地研修会に会員13名が参加し、当社からは内野政則常務と山口鶴美技術管理部長の2名が参加しました。

三養基土地改良区は筑後大堰から農業用水を取水・配水する筑後川下流土地改良事業の関連土地改良区の一つとして1985年3月に設立され、受益地域は佐賀県みやき町、上峰町、福岡県久留米市城島町に跨る面積約2000^{ヘクタール}で県営事業により造成された用水施設(管水路約46^{キロメートル}、揚水ポンプ場など)の管理業務や事業費償還業務を行っています。

研修会では、土地改良区の城野幸事務局長から「設立から40年近い時を過ぎ、組合員の減少及び高齢化により、改良区職員が直接出向いて分水操作や施設管理する機会が多く、事務所に職員が誰もいないことがあっている。また、維持管理する施設の老朽化が進み、管水路や空気弁から突発的な漏水が年々増加しているが、施設点検・評価ができる専門的な職員がいない。このような状況から、今後の施設の維持管理対応や長寿命化対応を適切に行うには、事務局体制の強化を図る必要がある。」と説明を受けた後、中原東部ポンプ場や福岡県側にある下田芦塚線末端分水工とファームポンド・貯水池を視察しました。

参加会員には、当土地改良区が管理する施設の整備に関わった者が多く、筑後川の水が農業用水として受益地に行き渡っていることに、整備に苦勞した当時を思い出し感慨深く聞いていた。

研修会(城野事務局長 概要説明)



中原東部揚水ポンプ場(左から山口、内野)



現地視察(中原東部揚水ポンプ場)



現地視察(下田芦塚線ファームポンド・貯水池)

